

□海外文献紹介□

胃食道逆流疾患患者の正常あるいは遅延した胃排出に及ぼす metoclopramide の効果

Effect of metoclopramide on normal and delayed gastric emptying in gastroesophageal reflux patients: SM Fink, RC Lange, RW McCallum (Dig Dis Sci 28: 1057-1061, 1983)

metoclopramide (市販名プリンペラン: 訳者注) は、下部食道括約筋圧を上昇させ胃食道逆流疾患(以下, GER) の治療に有効であることが知られている。最近, GER 患者は下部食道括約筋圧が低いというだけでなく GER 患者の 41~57% に胃排出時間の遅延が認められたと報告されている。

著者らは metoclopramide が GER 患者の胃排出を亢進させるのか、もしそうならば、その効果は単に胃排出遅延がある患者に限られるのか、正常な胃排出能をもつ GER 患

者にも有効かを検討した。検討対象は典型的な胸やけや逆流症状を訴えた 16 例の GER 患者で, Bernstein test, 食道内視鏡検査, 食道吸引生検のうち少なくとも 2 つの検査で GER 所見陽性と判定された患者であった。胃排出能は ^{99m}Tc -DTPA をひたした卵サラダサンドウィッチの投与後患者を仰臥位にして検討した。胃排出能の正常値は別に検討した健常者 26 人の成績に基づいた(正常値: 90 分後のアイソトープ胃内残存率 $51.8 \pm 17.4\%$, 正常域: 34~69%)。metoclopramide は検査食投与 30 分前に 10 mg 経口投与した。

GER 患者 26 例のうち 14 例(54%) の胃排出能は正常域にあったが, 12 例(46%) の胃排出能は遅延しており胃内残存率(90 分後)は 72~100% であった。metoclopramide 投与による胃排出の有意な亢進は 26 例全例に認められたが, その効果は

胃排出遅延のあった GER 患者で殊に著しく, 投与前の胃内残存率(90 分後)の平均値が $88.9 \pm 2.9\%$ であったのが投与により $43.6 \pm 3.6\%$ となった。胃排出能が正常域にあった GER 患者 12 例の胃内残存率(90 分後)の平均値も, 投与前 $54.4 \pm 2.3\%$ だったのが投与により $43.6 \pm 3.6\%$ と胃排出の亢進を認めた。

これら胃排出能の障害は幽門部の運動機能の異常に起因するものであるが, 本研究では GER 患者の 46% に認められた。以上より metoclopramide 投与は下部食道括約筋圧を高める効果のみならず, 胃排出能を改善させることにより胃内容物の逆流流量を減らすことも胃食道逆流防止の一助となりうると考えられ, GER 治療に metoclopramide を投与することは妥当と結論している。

(愛知県がんセンター第 1 内科

伊藤克昭 抄)